

令和 6 年度福岡大学外部評価結果

1. 令和 6 年度外部評価の実施概要

福岡大学は、令和 6 年度の自己点検・評価において、3つのポリシーに基づく各学部・研究科の取組みの適切性及び前年度の自己点検・評価で明らかとなった課題・問題点の改善状況を検証し、その結果を「令和 6 年度福岡大学点検・評価報告書」として取りまとめている。

令和 6 年度の福岡大学外部評価委員会は、福岡大学がまとめた同報告書の内容等について、第三者の視点から評価を実施した。

2. 令和 6 年度福岡大学外部評価に係るスケジュール

令和 7 年 2 月 3 日	福岡大学から外部評価委員会構成員へ資料の送付 令和 6 年度自己点検・評価報告書等の資料の共有
令和 7 年 2 月 3 日 ～3 月 5 日	外部評価委員会構成員による書面評価を実施 自己点検・評価報告書等を基に評価シートを作成
令和 7 年 4 月 11 日	外部評価委員会（意見交換会）の開催 令和 6 年度自己点検・評価報告書を踏まえ、大学の諸活動に関する評価及び意見交換の実施
令和 7 年 4 月 21 日 ～23 日	外部評価委員会の開催（メール会議） 評価シート及び意見交換会の内容に基づく外部評価結果の了承
令和 7 年 4 月 24 日	福岡大学へ外部評価結果を送付 令和 6 年度福岡大学外部評価結果を通知

3. 令和 6 年度外部評価結果

○点検・評価報告書に基づく評価結果について

（3つのポリシーに基づく各学部・研究科の取組み）

福岡大学では、「建学の精神」と「教育研究の理念」に基づいた全人教育の実現に向けて、学部・研究科における学位プログラムごとにそれぞれ3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー（DP）、カリキュラム・ポリシー（CP）、アドミッション・ポリシー（AP））を定め、大学ウェブサイト等で広く公表している。これらのポリシーは、学部及び大学院それぞれで策定したガイドラインに沿って適切に整備されており、各専門分野の特色を踏まえた内容となっている。なお、学部においては、令和 5 年度にポリシーの再整備を図り、全学共通の共通教育に関する DP 及び CP を新たに策定している。これに伴い、令和 6 年度は共通教育に関する検証を担当部局内で試行的に実施しているため、自己点検・評価及び外部評価は専門教育を対象としている。

DPに係る諸活動については、学部・研究科ともに学習成果の修得状況を検証するため、学位プログラムごとにアセスメントプランを定め、同プランに基づき学習成果の検証及び検証結果に基づいた教育改善に概ね適切に取り組んでいることが確認できた。ただし、自己点検・評価を通じて自ら課題として取り上げているとおり、学部においては、学習成果の検証に係る各種アンケート（卒業予定生アンケート、在学生アンケートなど）の回答率のさらなる向上を図ることが望まれる。また、学外者（卒業生、産業界等）の意見を踏まえた DP 自体の見直しを図るなど、より社会のニーズを踏まえた人材養成の実現に期待したい。

CPに係る諸活動については、学部・研究科ともに学位プログラムごとに CP に基づき体系性・順次性に配慮したカリキュラムの編成及び教育を実施しており、また、DP に示す学習成果と各授業科目の対応を示した「カリキュラム・マップ」や教育課程の体系性・順次性を示した「カリキュラム・ツリー」（学部のみ）を整備するなど、適切に取り組んでいることが確認できた。今後は、共通教育において、文系・理系の学部が一つのキャンパスに集結する福岡大学の特長を活かした文理横断の異分野交流を図る機会創出や、知識のみならず感性や人間力を育むことを主眼とした教育が実施されることに期待したい。

APに係る諸活動については、学部・研究科ともに学位プログラムごとに AP に示す「求める学生像」を踏まえた多様な入試制度を設け、AP に基づく適切な入学者選抜の実施に取り組んでいることが確認できた。その一方で、収容定員に対する在籍学生数比率（収容定員充足率）について、令和 4 年度に認証評価を受審した際の大学基準協会が定める基準に照らして、医学部医学科では超過しており、工学部化学システム工学科及び文系の研究科を中心に複数の研究科で未充足となっているため、定員管理を適切に行うことが望まれる。

（前年度の自己点検・評価で明らかとなった課題・問題点の改善状況）

令和 5 年度自己点検・評価で明らかとなった課題・問題点①～④について、いずれも改善に向けて取り組んでいるものの、十分な改善には至っていないため、引き続き改善に向けて取り組むことが望まれる。なお、課題・問題点④（研究科の定員未充足）については、福岡大学に限らず全国的な問題であり、改善が非常に困難であると思われるが、社会人学生や留学生の受け入れの拡大を図るほか、組織や入学定員を見直すなど、全学的な取り組みが推進されることに期待したい。

（まとめ）

学部・研究科ともに 3 つのポリシーに基づく諸活動について、毎年度の自己点検・評価を通じて PDCA サイクルが有効に機能しており、教育活動における質保証に適切に取り組んでいると判断できる。自己点検・評価を通じて明らかとなった課題については、早期の改善が困難なものもみられるが、改善に向けて継続的に取り組むことが望まれる。

なお、DP に示す学習成果の把握に係る取り組みについては、大学教育の質を保証するう

えて今後もさらに重要となるため、教職員及び学生自身がその目的や必要性を理解し、意識が向上するよう、大学全体でより一層推進されるよう期待したい。

○その他（意見交換会における意見等について）

上述の点検・評価報告書に基づく評価に加えて、福岡大学の執行部と『将来を見据えた大学と社会との関わりについて』をテーマに、社会人学生の受け入れや社会人の学び直しの推進等について意見交換会を行った。各委員から出された主な意見は、以下のとおりである。

（主な意見）

- 社会人の受け入れにあたっては、授業料の減免など、経済的な負担を軽減する制度が充実していることが望ましい。また、休日や夜間の時間帯での授業開講や、通いやすい立地（教室）の確保など、社会人が就業しながら学ぶことができる環境が整備されていることが望ましい。
- 大学における社会人の学び直しの実態が見えづらいため、実際に学び直しを希望する者がいても周囲の理解を得難いなど、様々な障壁があるように感じる。社会人の学び直しを推進するため、社会人を対象とした大学の取組みを積極的にアピールしていただきたい。
- 年齢や就業環境等により大学での学び直しに対するニーズは様々であると思われるため、社会との対話の機会を増やし、社会人の学び直しに対するニーズの把握に努めていただきたい。
- 社会人学生の受け入れは、大学に在籍する通常の学生（就業していない学生）にとって、様々な経験を有する社会人と交流できる貴重な機会であり、大学全体の活性化に繋がるものと期待される。
- 福岡大学は多くの卒業生を輩出し、それぞれが様々な分野で活躍しているため、卒業生との連携強化を図り、引き続き、社会のニーズに対応したより良い人材の育成に取り組んでいただきたい。

令和7年4月23日

福岡大学外部評価委員会

委員長 内 村 直 尚

（学校法人久留米大学 理事・学長）

委 員 三 角 正 文

（福岡市交通局 元理事）

委 員 丸 野 俊 一

（国立大学法人九州大学 名誉教授）

委 員 河 邊 哲 司

（株式会社久原本家グループ本社 代表取締役社長）